

研修報告 議会運営委員会

7月7日、8日に議会運営委員、執行部、事務局で福岡県古賀市と筑前町の2ヶ所で開催を行いました。

両市町とも、2014年度早稲田大学マニフェスト研究所が発表した地方議会の改革度全国ランキングで、上位に評価されたところです。

古賀市は、福岡市に近接し交通アクセスに恵まれ、人口も約5万8千人に達し、合併せずに単独で平成9年10月1日に市制に移行しています。

古賀市議会では、「議会活性化の取り組み」について研修しました。

議会活性化に向けた取り組みは、議会ホームページを活用した情報発信の取り組みとして委員



福岡県古賀市にて

積極的な住民参加が行われていました。

定例会・委員会はずべて無条件公開で、資料もすべて提供。また、議会報告会・意見交換会を実施するとともに、各会における意見等を議会、たより等で公開もしていました。

その他、定例会で視力補助等のバリアフリー対策の実施、アンケートの民意調査結果の公開など多くの取り組みがなされていました。

議会報告会については、参加者が年々少なくなり、固定化が見られるのとこのことで、その課題解決へ向けた検討が繰り返されていました。

また、町内各種団体との意見交換会の開催については、区長会、老人クラブ、商工会、男女が輝くまちづくりを考える会など、多くの団体と意見交換がなされていました。

次に、筑前町は、福岡市まで30km圏内にあり、人口は、2万9千人の町です。
筑前町議会においては、

研修報告

議会広報編集特別委員会

7月27、28日に委員と事務局で福岡県須恵町と新宮町の2ヶ所で開催した。今回は第29回、町村議会広報全国コンクールにおいて須恵議会

だより189号が234町村から応募、広報誌の中から奨励賞を受賞、特に表紙の写真はシリーズとして「未来を担う子どもたち」をテーマとした姿を焦点においてバランスのとれた構図が評価されている。広報の概要を聴き本町との相違点を検索しながら質疑意見交換を行なった。また、議会

広報の全般について委員長より教授頂き、同時に両町の広報を比較しながら意見交換を行い、双方の評価と改善を見いだすことができた。いかに見てもらう紙面づくりが大事か痛感した。特に広報編集のあり方に感じたことは総合的に事業写真紹介が一体化された枠組みとな

っている。各意見の賛



福岡県須恵町にて

成反対討論においてその都度簡潔に掲載され施設等の工事施工については、その概要、事業者の財務内容を明記し写真を並列一目で概要が把握できる構成となっている。一般質問の欄では「ここが聞きたい」大きなタイトルで上部に答弁、町長の姿勢の写真、下段に質問者の上半身写真を用いて4段枠組みで文字の間隔があり、見やすい簡潔な質疑応答方式による紙面に立体感を感じた。

最後に記念創刊50周年広報編集にあたり表紙の掲載選考に双方の委員意思同意で確定したことが

深く感銘し今後の広報づくりに応用していきたい。

二日目の研修地新宮町は、人口3万人世帯数が11500で平成27年度一般会計133億83百万円、議会だよりの印刷製本費255万円で本町と類似自治体規模であり研修地として選定した。

全委員出席のもとに議会広報編集全般について説明を受けた。議会だよりの編集方針として本会議の審議内容、委員会報告を議員の視点で議員が主体となり編集している。今回の研修感想として

改善点を2町の独自性を見い出すことができ本町の広報活動に生かすために双方の議会、だよりを交換し第3者の目線で長所短所、注意点を質疑、意見交換できたことが有意義でした。今後、見やすい議会情報を提供できるよう改善すべき事項を列挙し委員一丸となって取り組む所存です。議員各位の協力はもとより町民のご指導ご支援を得ながら広報づくりに邁進致します。

ます。